

ジューキ電子ミシン

正しいミシンの使い方

電子スーパーオートジグザグ *HZL-550*型

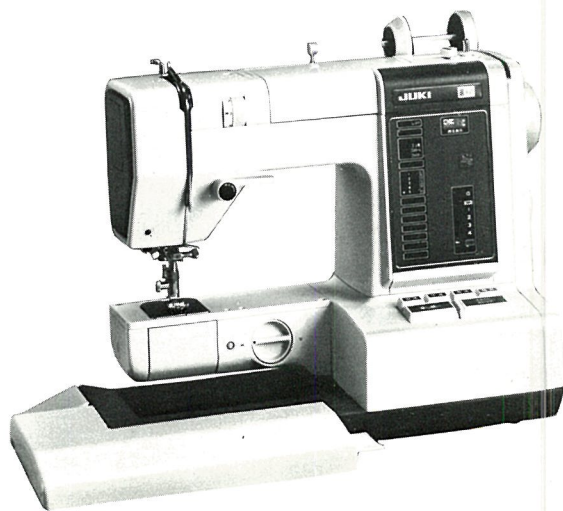


このたびは、ジューキH Z L-550型ミシンを
お買い求めいただき、ありがとうございました。

今日からあなたのホームソーイングプランのパートナーとなりましたH Z L-550型は、美しい直線縫いとホームソーイングに適した実用縫いはもちろんのこと、そでつけ、カフスつけやズボン等の筒縫いが簡単にできるフリーアームミシンです。更には、使い易さと縫う楽しさを追求したジューキ独自の数々の特長を備えた高級ジグザグミシンです。たとえば世界で初めての自動糸切り装置を初め、自動ボタン穴かがり縫い、自動針穴糸通し装置、電子スピード制御装置、電子模様表示等より簡単で、より楽しいホームソーイングができることを確信してお届け致しました。

この優れた数々の機能を楽しくご使用頂くためには、ミシンの正しい取り扱いが基本となります。どうぞ、この使用説明書をよくお読みいただき、楽しいホームソーイングのパートナーとして末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

万一ミシンについておわかりにならないことや、ご不審な点がありましたら、当社支店並びにサービスセンターへ、ご遠慮なくお申し出下さい。ただちに係員を参上させ、アフターサービスに万全をつくし、ご奉仕申し上げます。

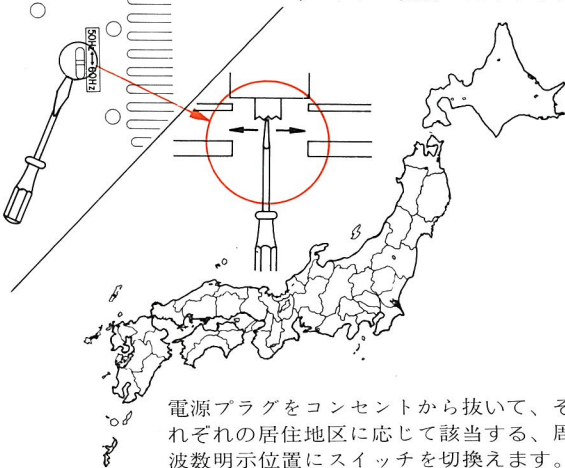


電源周波数の切り換え・ケースのとりはずし方	1
各部の名称とはたらき	2
ステッチパネルと各ステッチの送り量と速度	4
押え格納ケースと付属品	5
針の取り外し、取り付け方	6
ベットとフリーアーム	7
下糸の巻き方	8
ボビンをボビンケースに入れる方法	9
上糸のかけ方	10
針への糸通し（自動針穴糸通し器の使い方）	11
ミシンの動かし方①（コントロールボタンを使うとき）	12
ミシンの動かし方②（コントローラーを使うとき）	13
自動糸切り（縫い終わった糸の処理）	14
布地、ミシン糸、針の関係とミシンの合わせ方	15
直線縫い	16
ジグザグ縫い	20
しつけ縫い	22
チェーンステッチ	26
いろいろな縫い方	31
裁ち目かがり・フェザーステッチ	32
自動ボタン穴かがり	34
高縫い（フリーアーム）	37
ファスナーつけ	38
コンシールファスナーつけ	40
ブラインドステッチ（めくら縫い）	42
三ツ巻	44
ひもつけ（コードししゅう）	46
ボタンつけ	48
伸縮強化縫い（ストレッチステッチ）	50

エラスチック	52
アップリケ	54
レースつけ	56
キルティング	58
スモッキング	60
パッチワーク（はぎ合わせ）	62
シェルタック	64
シャーリング	66
ししゅう	68
上送り	70
針について	71
ミシンの手入れの仕方	72
故障の原因と修理	73

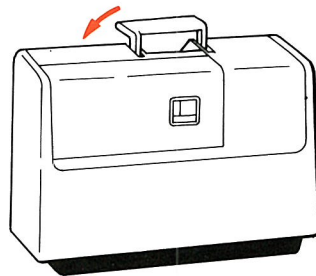
電源周波数の切り換え

50Hz地域／北海道、東京、東北電力管下
 60Hz地域／北陸、中部、関西、中国、四国、九州電力管下
 （ベットの裏側にあります）

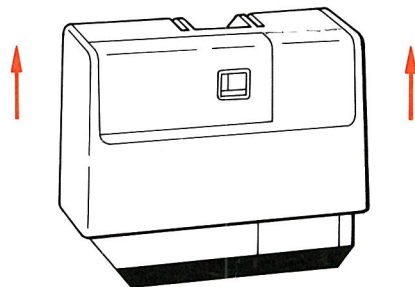


電源プラグをコンセントから抜いて、それぞれの居住地区に応じて該当する、周波数明示位置にスイッチを切換えます。

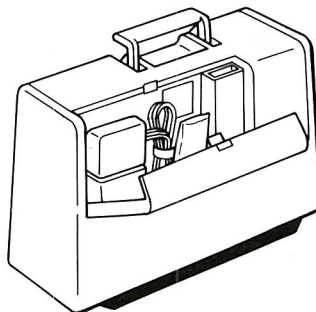
ケースのとりはずし方



①ハンドルをたおします。

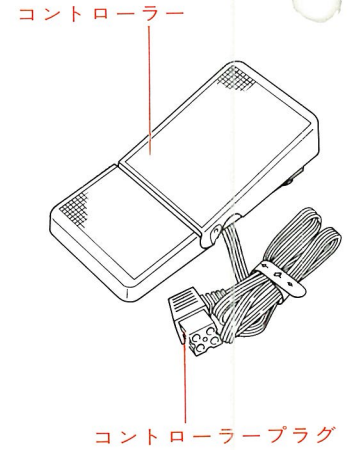
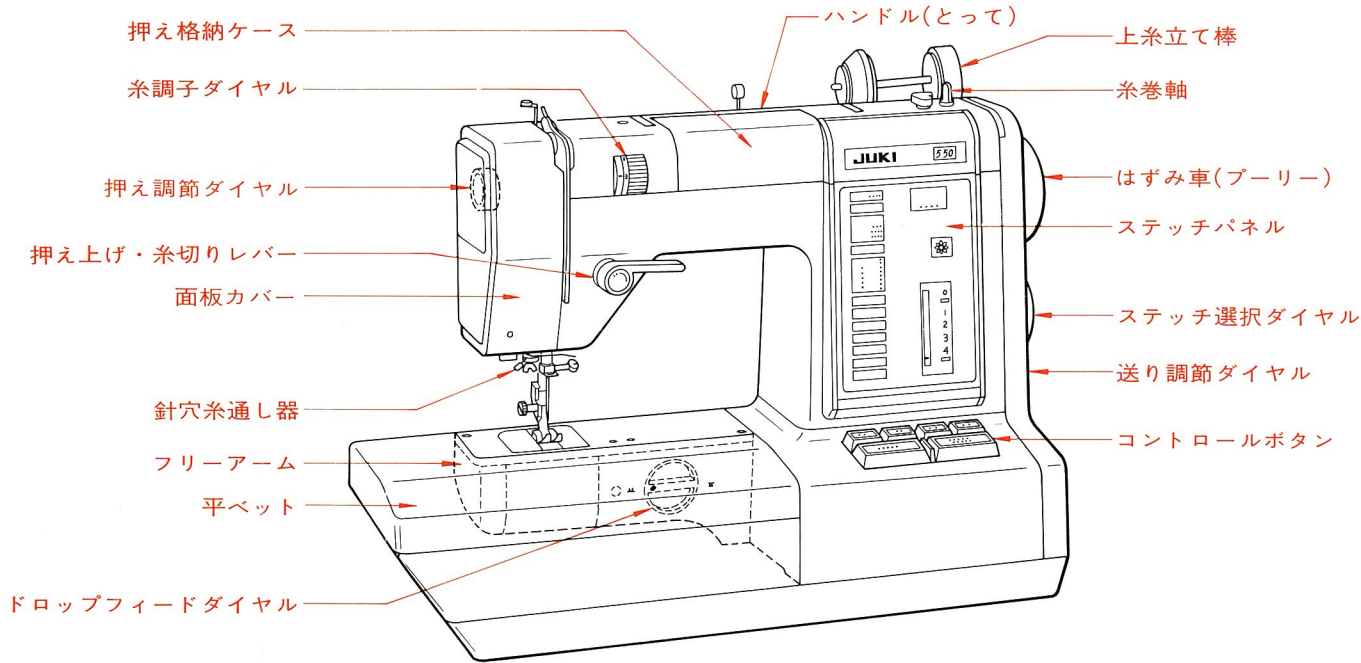


②ケースを持ち上げます。



ケース内には付属品が格納されています。

各部の名称とはたらき



糸調子ダイヤル

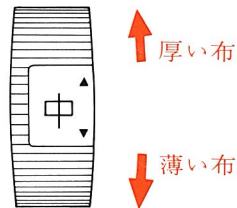
上糸の調節をします。



(詳しくは15ページを参照)

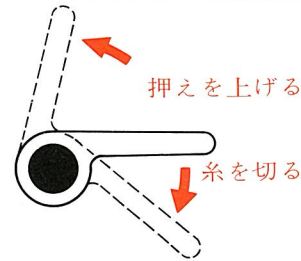
押え調節ダイヤル(面板の中)

布地の種類によって調節します。



(詳しくは15ページを参照)

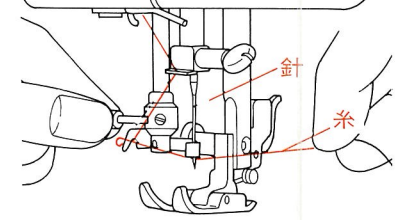
押え上げ・糸切りレバー



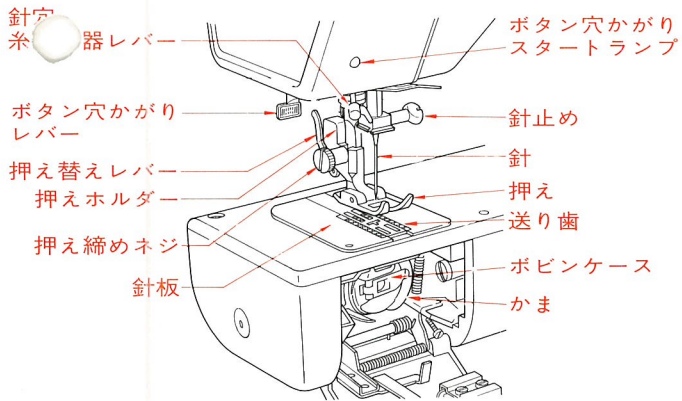
(詳しくは14ページを参照)

針穴糸通し器

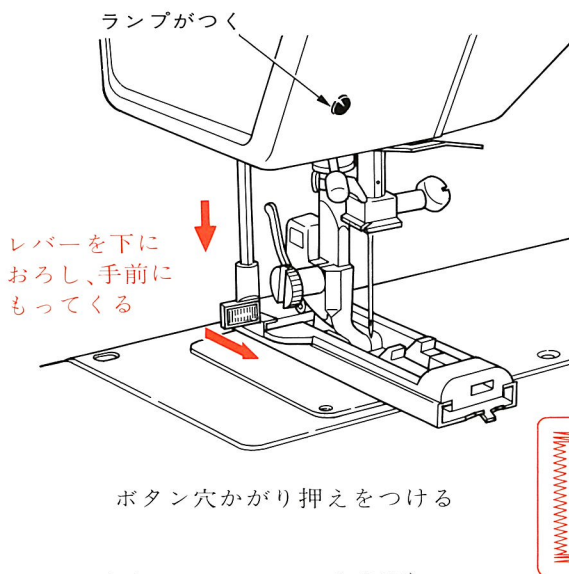
針に糸を通すときに使います。



(11ページを参照)



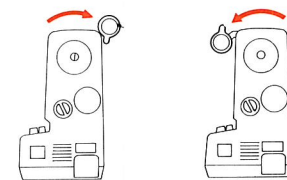
ボタン穴かがりの自動化



(詳しくは34ページを参照)

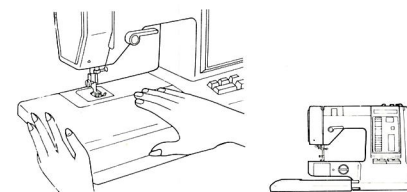
糸立て棒

縫うとき ケースにしまうとき



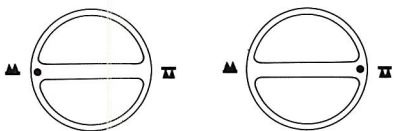
フリーアーム

セットのし方は7ページを参照。



ドロップフィードダイヤル

送り歯を上下させます。

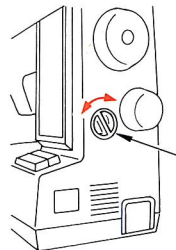


普通縫い

ボタン付け
しつけ縫い
ししゅう縫い

送り調節ダイヤル

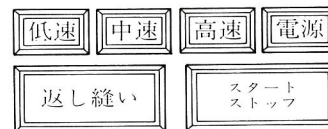
縫い目の長さを調節します。



その送り量はステッチパネルに示されます。
(4ページを参照)

コントロールボタン

ミシンを動かすスイッチで、スピードは低、中、高の3段階に使用できます。



(詳しくは12ページを参照)

返し縫いボタン

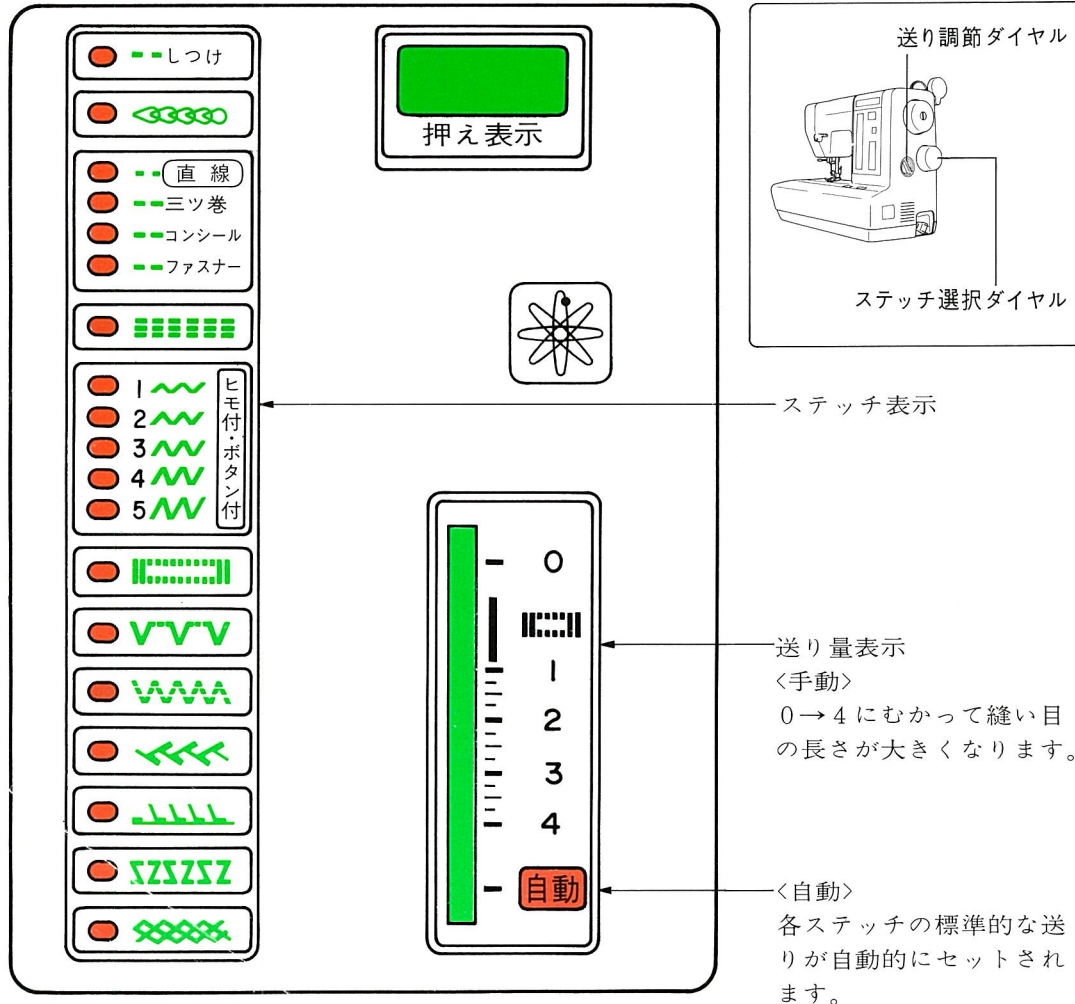
返し縫いボタンを押すと押している間だけ返し縫いができます。



(詳しくは12ページを参照)

ステッチパネルと各ステッチの送り量と速度

ステッチパネル



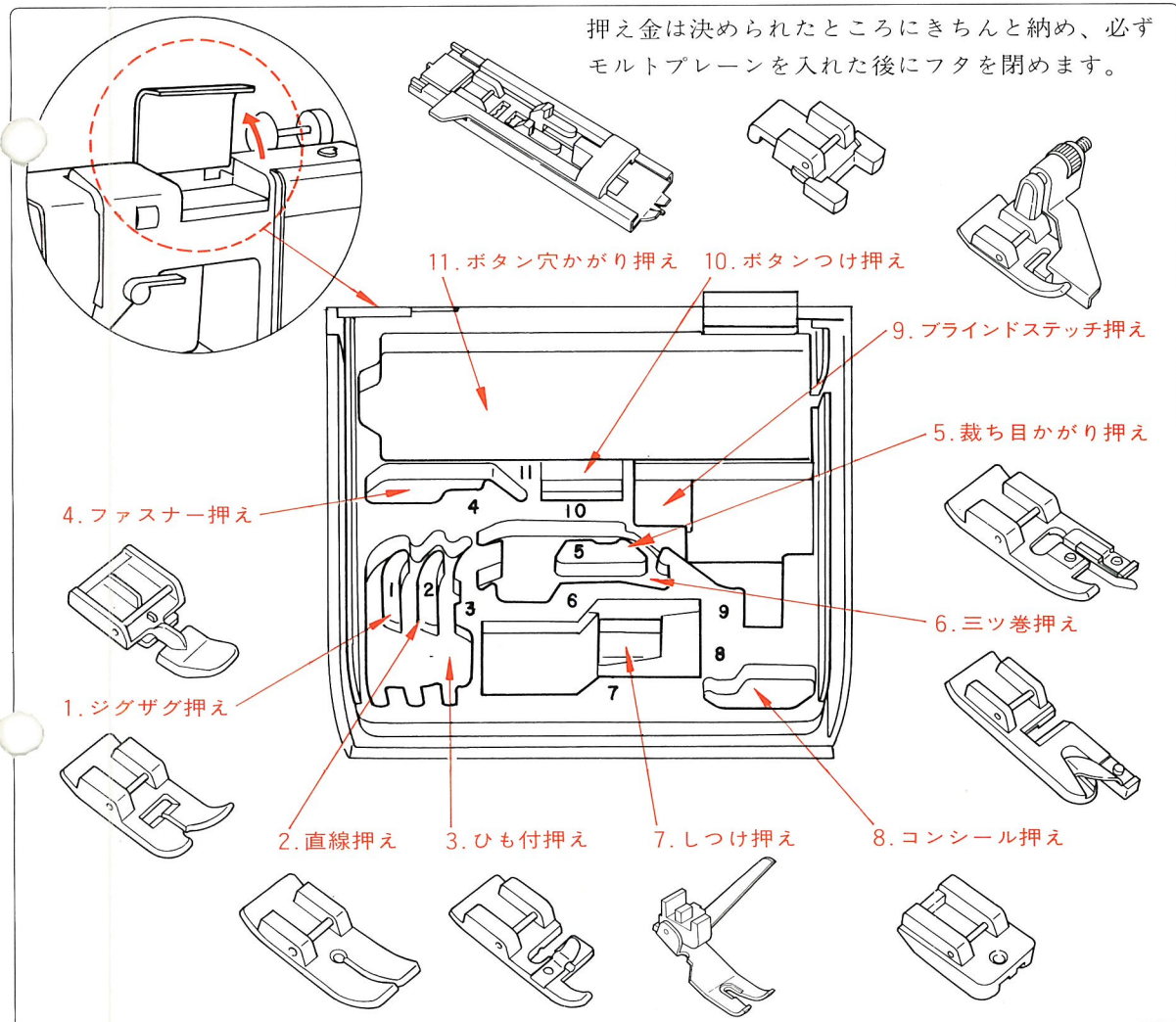
各ステッチの送り量と速度

ステッチ	送り量		速度
	手動	自動	
--- しつけ			
◀◀◀◀◀		3.5	低速 中速 高速
--- (直線)	0 ~ 4	2.5	低速 中速 高速
--- 三ツ巻	1 ~ 4	2.5	低速 中速
--- コンシール	1 ~ 4	2.5	低速 中速
--- ファスナー	1 ~ 4	2.5	低速 中速
		2.5	低速 中速
1 ~~~~~	0.5 ~ 4	1.3	低速 中速 高速
2 ~~~~~	0.5 ~ 4	1.3	低速 中速 高速
3 ~~~~~	0.5 ~ 4	1.3	低速 中速 高速
4 ~~~~~	0.5 ~ 4	1.3	低速 中速 高速
5 ~~~~~	0.5 ~ 4	1.3	低速 中速 高速
	0.2 ~ 1		低速 中速
VVVV		1.3	低速 中速
~~~~~		1.3	低速 中速 高速
◀◀◀		2.5	低速 中速 高速
~~~~~		2.5	低速 中速 高速
ΣΣΣΣΣ		2.5	低速 中速 高速
◇◇◇◇◇		2.5	低速 中速 高速

押え金格納ケースと付属品

押え金格納ケース

押え金は決められたところにきちんと納め、必ずモルトプレーンを入れた後にフタを閉めます。

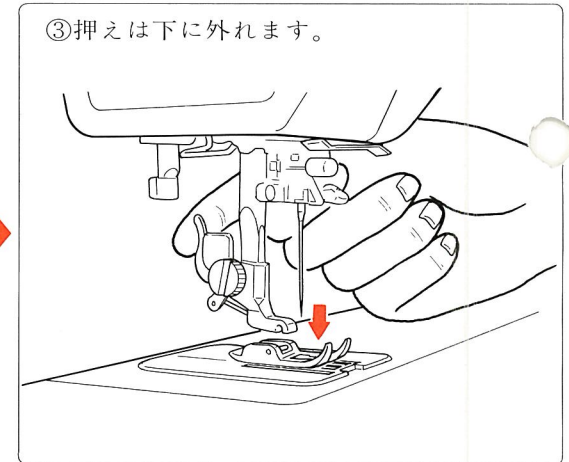
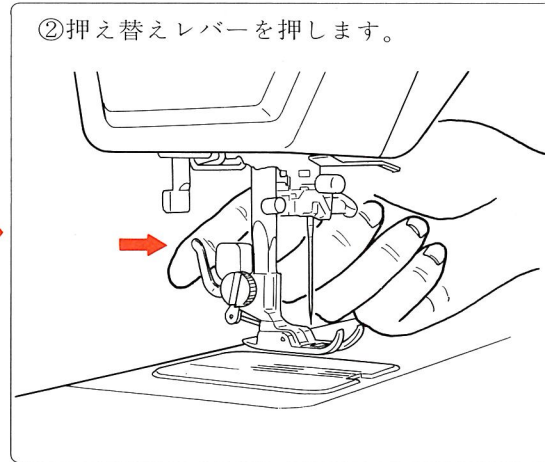
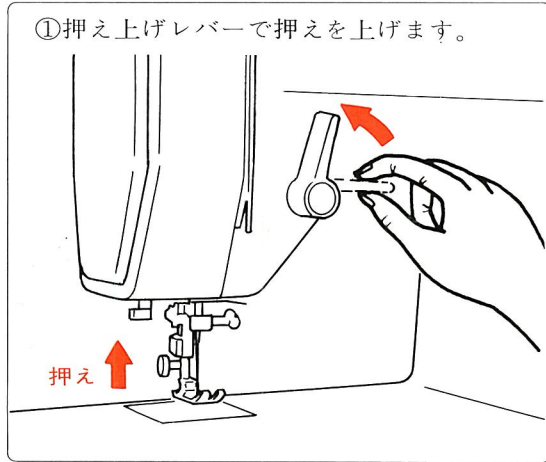


付属品

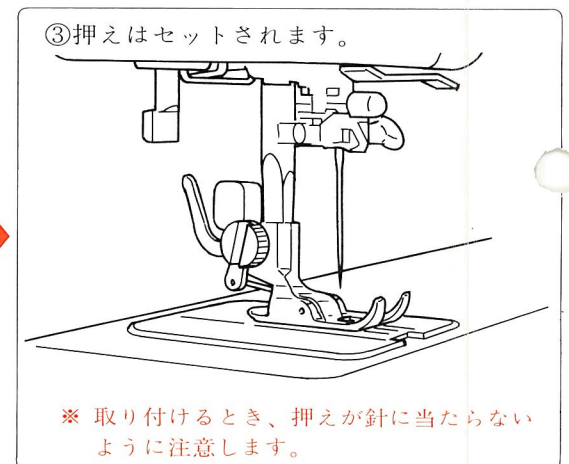
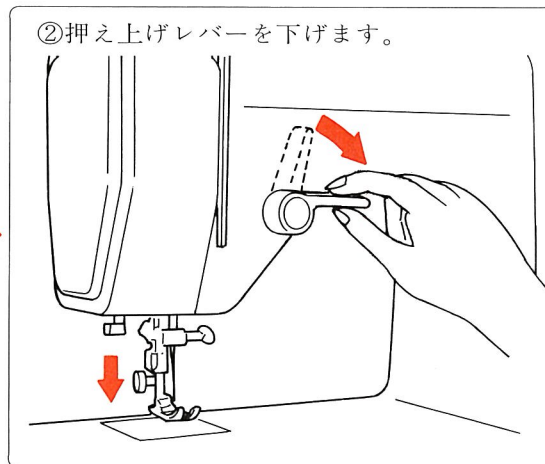
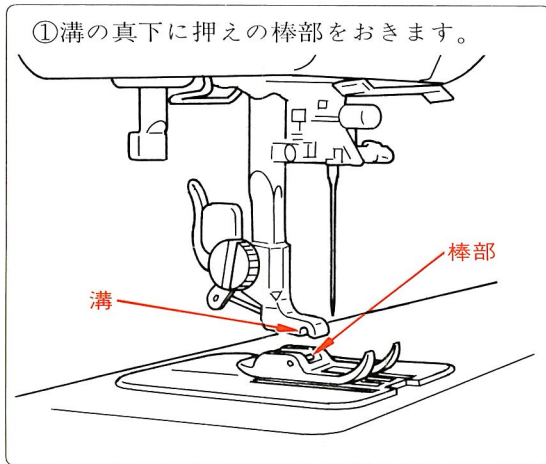
ボビン(4個)	針ケース
糸ほどき(リッパー)	ドライバー(小)
ドライバー(中)	油さし
棒定規	定規
ししゅう押え	上送りアタッチメント

押えの取り外し・取り付け方

取り外し方



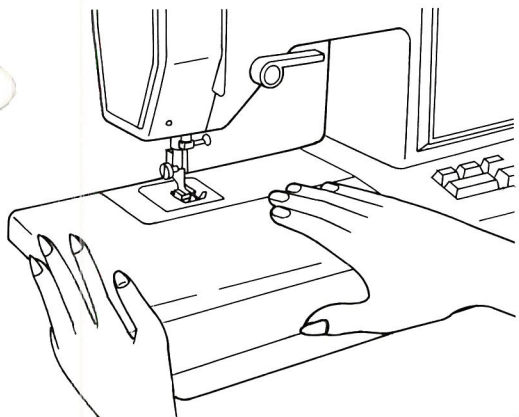
取り付け方



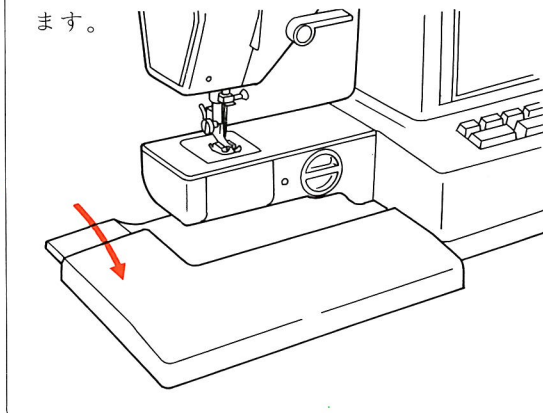
平ベットとフリーアーム

平ベットからフリーアームへ

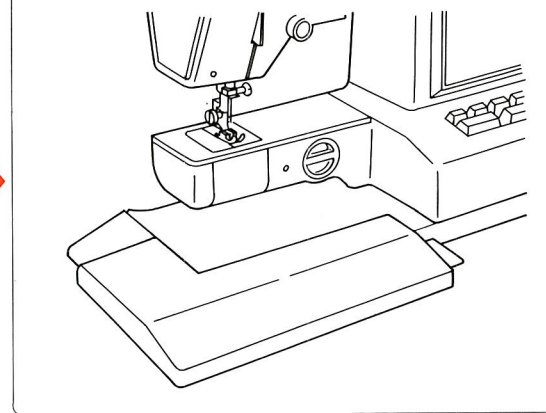
①ベットの左側面と上部に手をおきます。



②手前に引きますとベットは下にさがります。

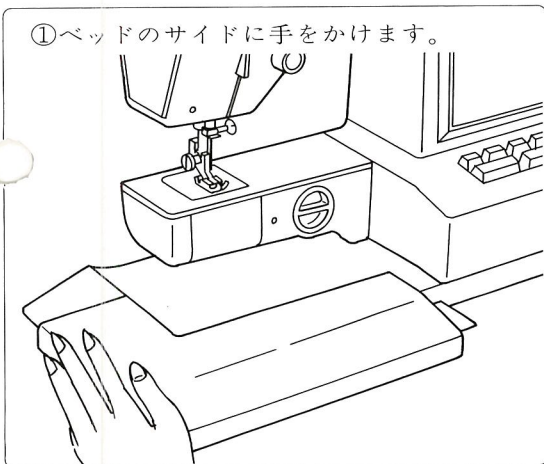


③下まできちんと下げます。

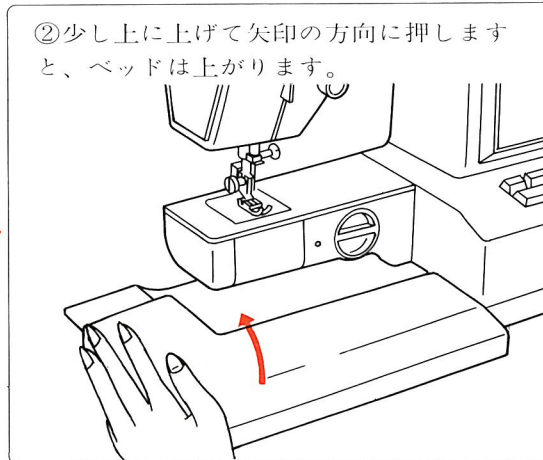


フリーアームから平ベットへ

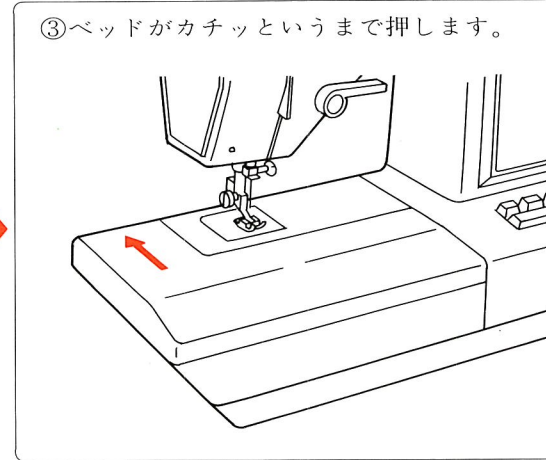
①ベットのサイドに手をかけます。



②少し上に上げて矢印の方向に押し出すと、ベットは上がります。

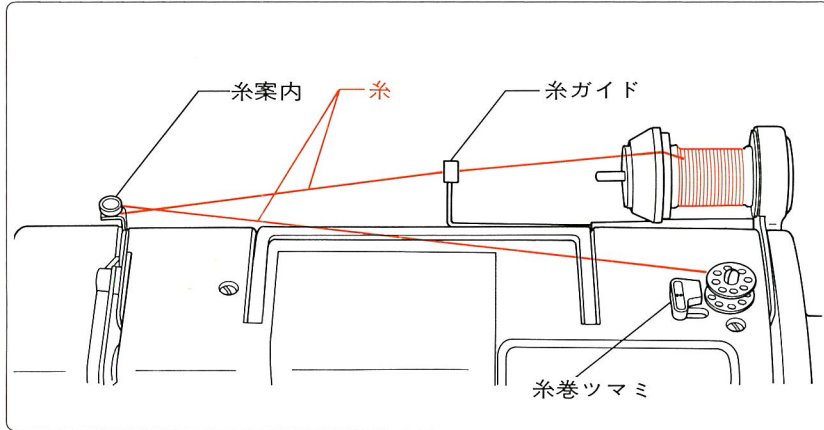


③ベットがカチッというまで押し出します。



下糸の巻き方

下糸巻きの糸のかけ方



1

糸立棒に糸ゴマを入れキャップをします。糸ゴマが大きい場合はキャップの大きい面から入れ、小さい場合は小さい面から入れます。

2

ボビンの小穴の内側から5cm位ひきだします。

3

ボビンを糸巻軸に確実に差し込みます。

4

糸のはしをもったままレバーをボビンに当て、回します。

5

巻き終るとレバーは自動的に戻り回転は止ります。糸を切ります。

○

正しい巻き方

×

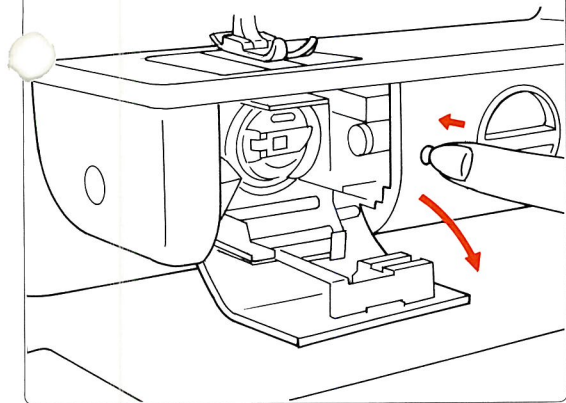
ネジをゆるめて下にさげて、ネジを締めます。

×

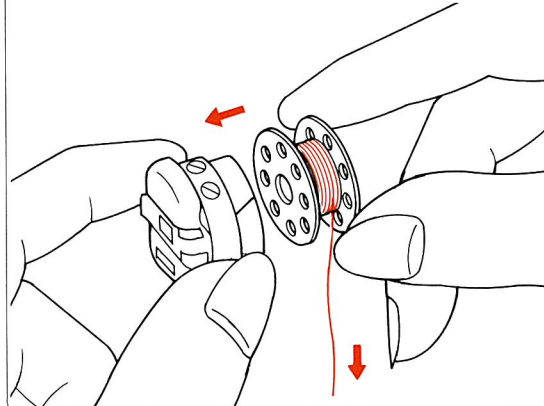
ネジをゆるめて上に上げて、ネジを締めます。

ボビンをボビンケースに入れる方法

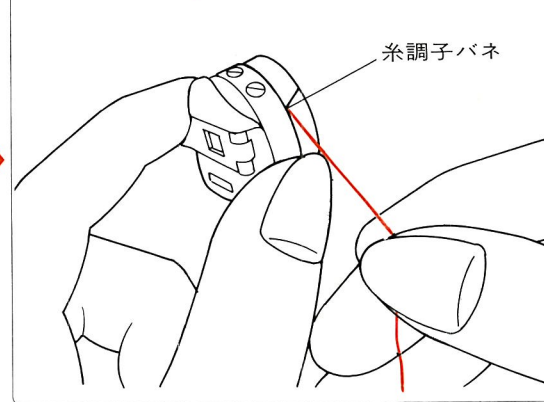
①フリーアーム前面についているボタンを押しますとフタが開きます。



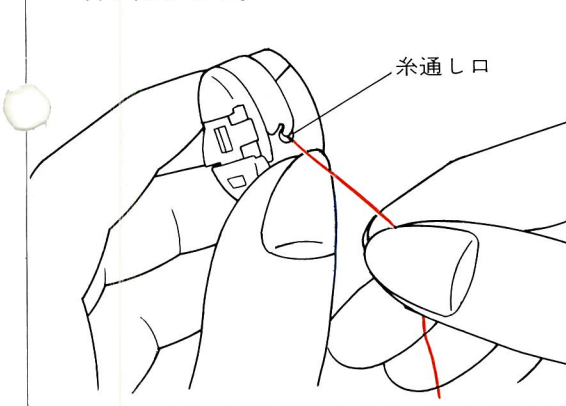
②ボビンの糸はしを矢印の方向に10センチ位出してボビンケースに入れます。



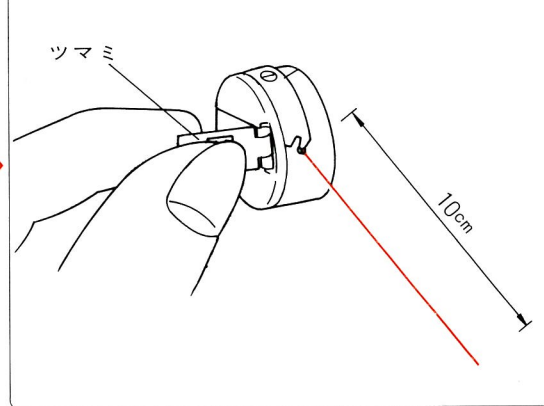
③糸をボビンケースの糸通し口に通します。



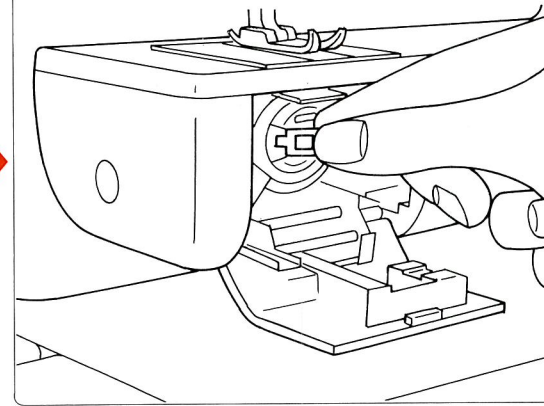
④糸調子バネの下にくぐらせて糸口から引き出します。



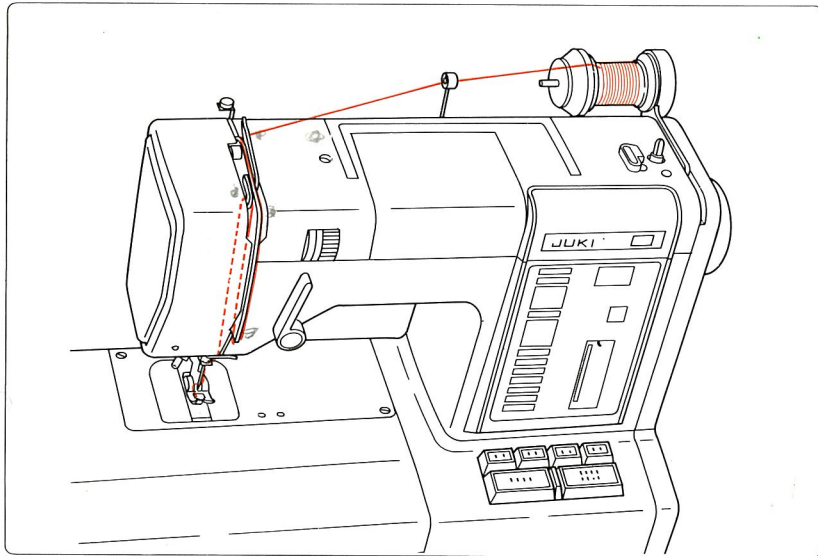
⑤ボビンケースのつまみを持ち糸はしを10センチ位出します。



⑥ボビンケースを釜にしっかりと差し込みます。



上糸のかけ方



1

①糸ゴマを取り付け糸ゴマ押えで糸ゴマが動かないように押えます。
②糸を引き出し糸ガイドにセットします。

2

押えレバーを上にあげます。

3

面板糸案内
糸調子皿
皿の間にすべりこませます。

4

糸取りバネ
糸案内B
面板と糸案内Bをつたわせて糸を上を持って行きますと、糸取りバネにかかります。

5

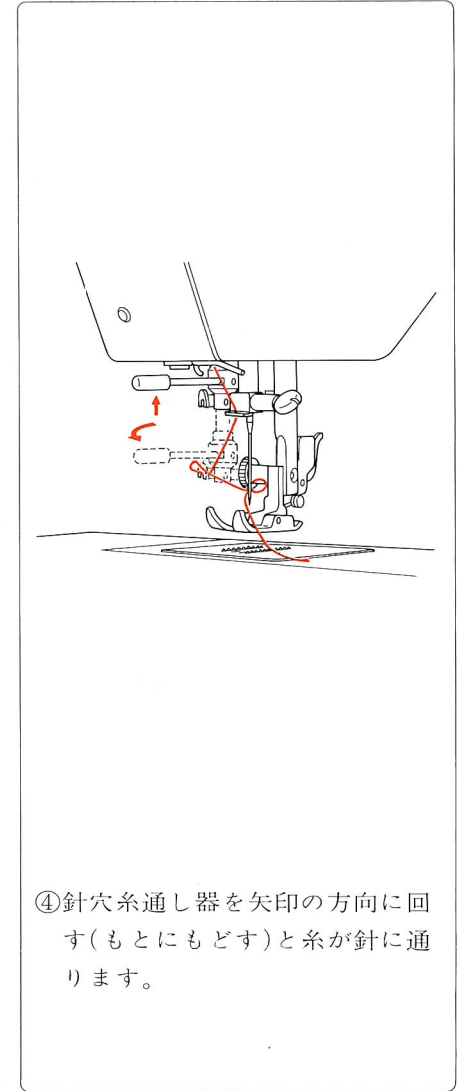
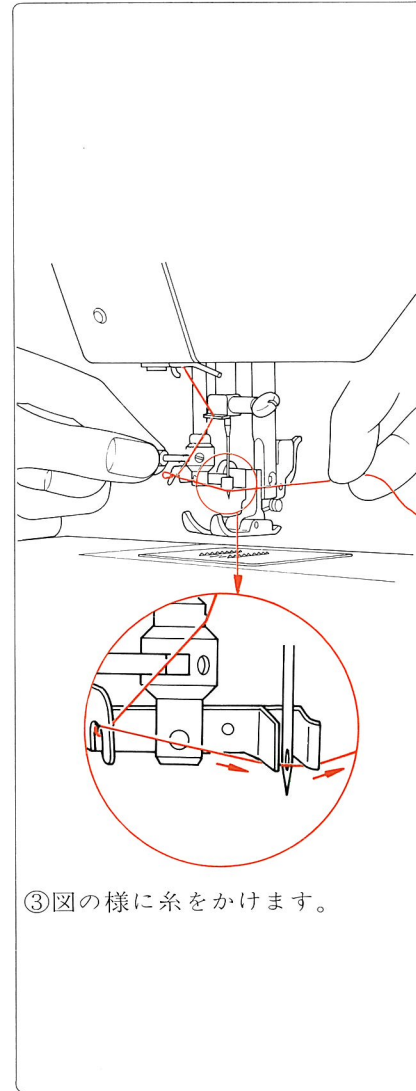
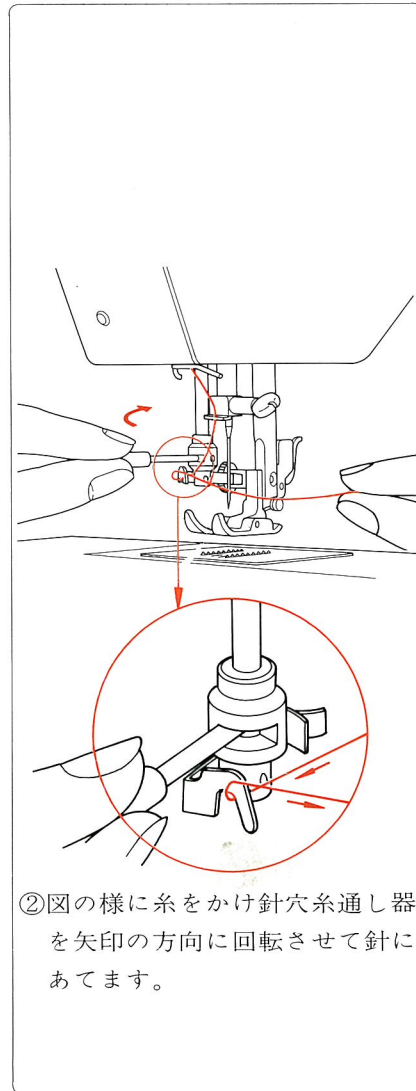
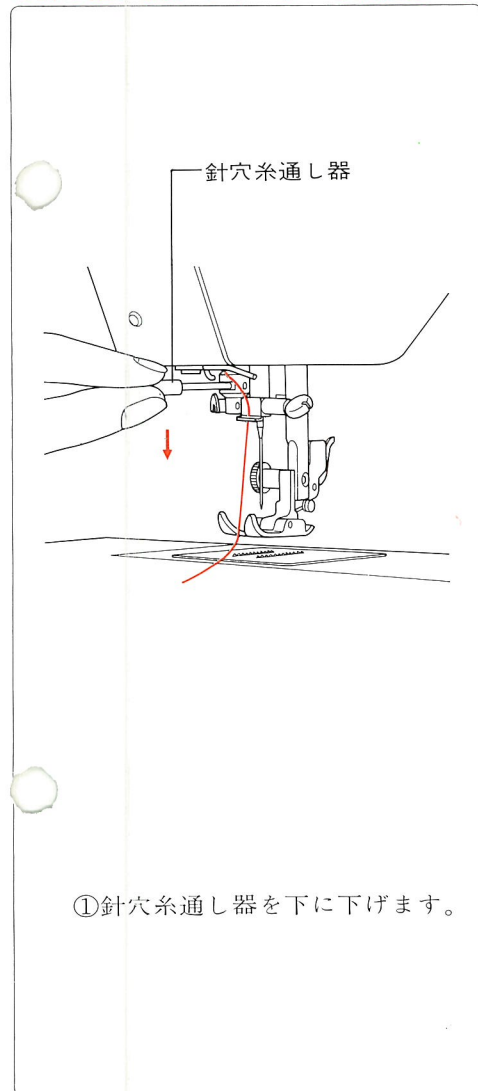
次に天秤に糸をかけて下にもってゆきます。

6

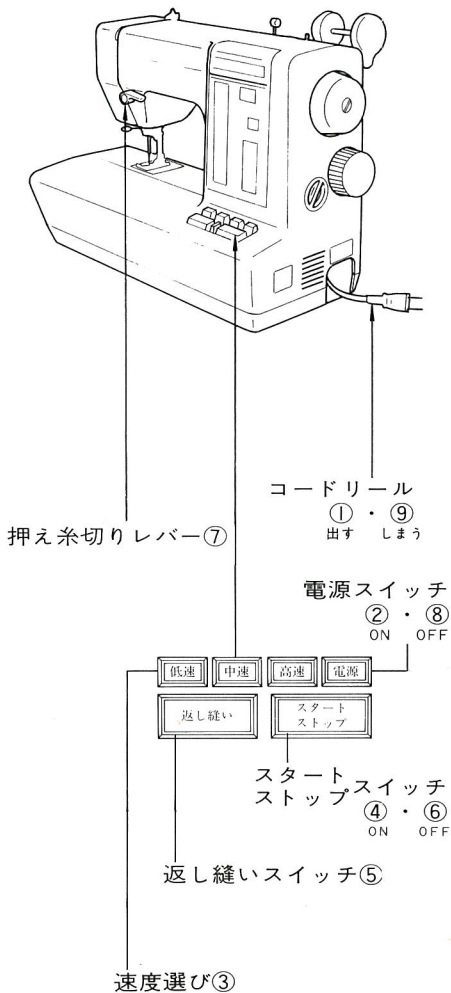
面板糸案内
針棒糸案内
面板糸案内と針棒糸案内に糸をかけます。

針への糸通し(自動針穴糸通し器の使い方)

※針が上に上がっていないと糸通しつまみは回りません。

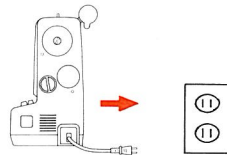


ミシンの動かし方①(コントロールボタンを使うとき)



1. 電源コンセント

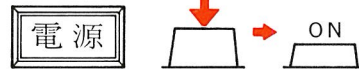
コードを引き出し電源コンセントへ差し込みます。



黄の帯まで引き出し、赤の帯以上は引き出しません。

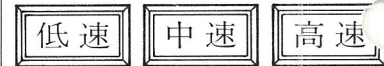
2. 電源を入れる

電源スイッチを押します。ランプも同時につきます。



3. 速度選び

3段階のお好みのスピードを選びコントロールボタンを押します。



● ゆっくり縫い ● 中速縫い ● スピード縫い

4. スタート

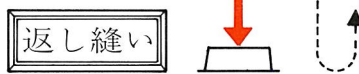
スタート・ストップスイッチを押すと③で選んだ速度で動き始めます。



※下まで確実に押します。

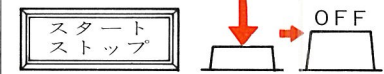
5. 返し縫い

返し縫いスイッチを押します。スイッチから指をはなすと普通縫いになります。



6. ストップ

スタート・ストップスイッチを押すと止まります。



※針は糸が通しやすい上方で止ります。

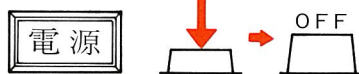
7. 糸切り

糸切りレバーを押しますと上糸と下糸が切れて針は上方で止まります。



8. 縫い終了

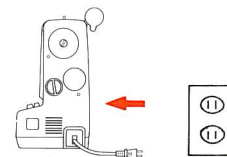
電源スイッチを押します。ランプも消えます。



※ミシンを使用しない時はこの状態にします。

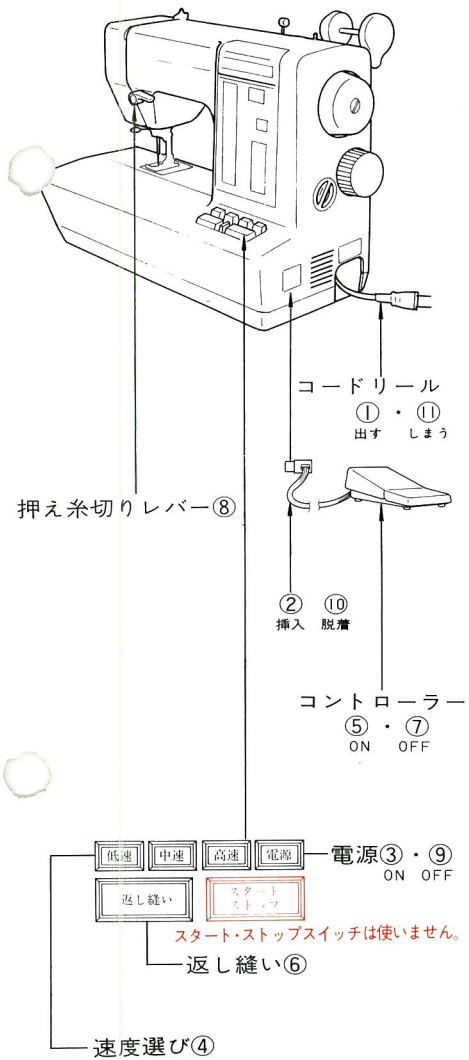
9. 収納

ミシンのコードリールを少し引張って手をはなしますと自動的にコードが巻かれます。



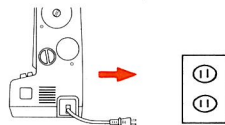
ミシンの動かし方②(コントローラーを使うとき)

※スタート・ストップスイッチをしません。



1. 電源コンセントへ

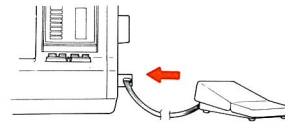
コードを引き出し電源コンセントへ差し込みます。



黄の帯まで引き出し、赤の帯以上は引き出しません。

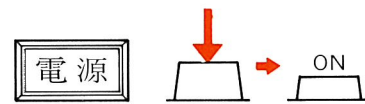
2. コントローラー挿入

コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差し込みます。



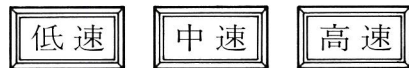
3. 電源を入れる

電源スイッチを押します。ランプも同時につきます。



4. 速度選び

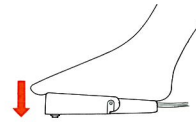
3段階のお好みのスピードを選びコントロールボタンを押します。



● ゆっくり縫い ● 中速縫い ● スピード縫い

5. コントローラー踏む

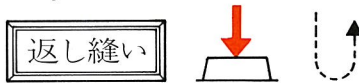
コントローラーを踏みますと④で選んだ速度のコントロールができます。



低速=低
中速=低→中
高速=低→高
—コントロール

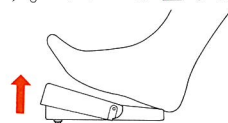
6. 返し縫い

返し縫いスイッチを押します。スイッチから指をはなすと普通縫いになります。



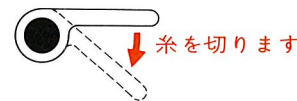
7. コントローラー離す

縫い終わったらコントローラーを離します。ミシンが止まります。



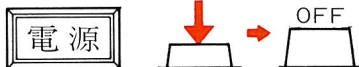
8. 糸切り

糸切りレバーを押しますと上糸と下糸が切れて針は上方で止まります。



9. 縫い終了

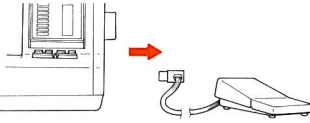
電源スイッチを押します。ランプも消えます。



※ミシンを使用しない時はこの状態にします。

10. コントローラー脱着

ミシンのコンセントからコントローラーのプラグを抜きます。



11. 収納

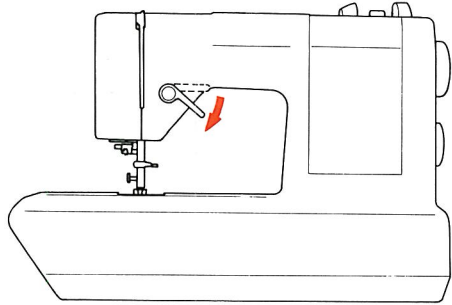
ミシンのコードリールを少し引っ張って手をはなしますと自動的にコードが巻れます。



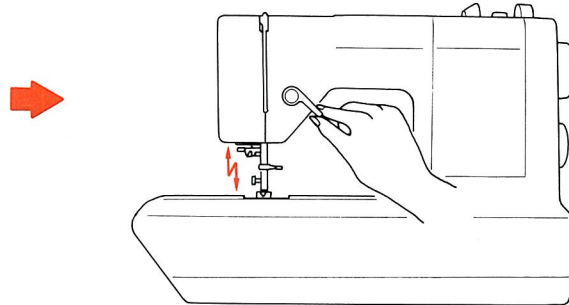
自動糸切り(縫い終わった糸の処理)

自動糸切りの仕方

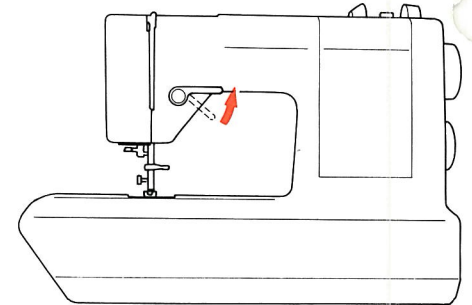
①縫い終わったら糸切りレバーを下に下ろします。



②針棒が上下して上糸と下糸が切れ、針は上方で止まります。

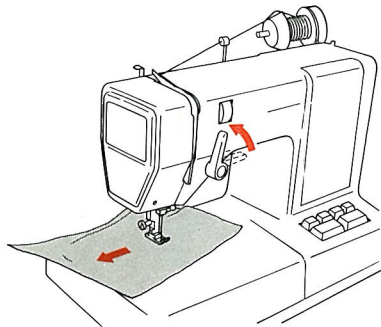


③針が止まったらレバーから手をはなします。(自動的にもどります)



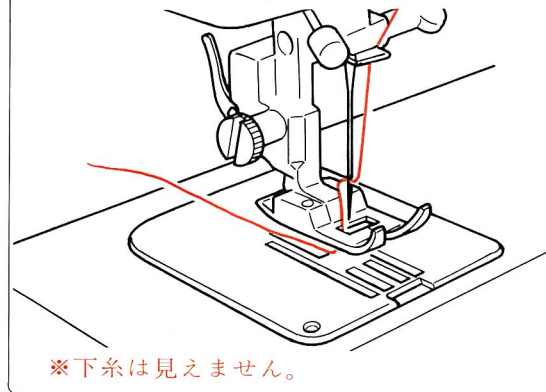
縫った布地の取りだし方

- ①押えを上げます。
- ②布地を引っぱります。
切れ残った上糸が針板の上に出ます。



再度縫うとき

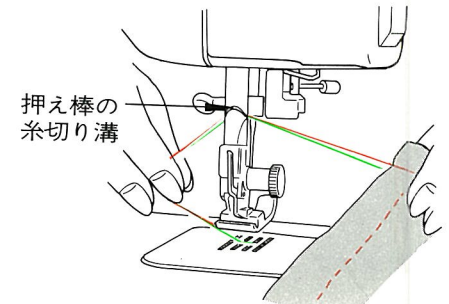
切れ残った上糸は押えの下になるようにして縫い始めます。



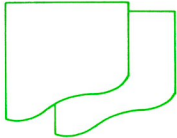
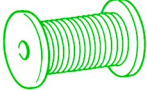


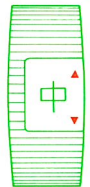

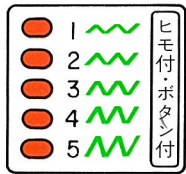

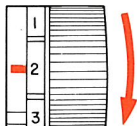
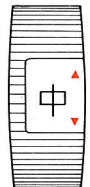
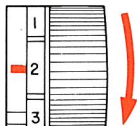
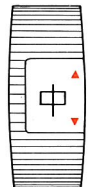

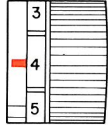
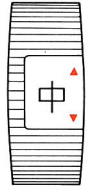
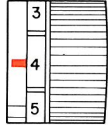
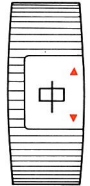

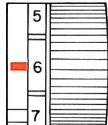

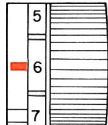
※下糸は見えません。

ご注意

- ①特殊な糸は自動糸切りで切れない場合があります。その時は下図のようにして押え棒の糸切り溝を使って糸を切ります。
- ②糸を結ぶ場合は自動糸切りを使用しないで糸切り溝を使って糸を切ります。



布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方

	布地・ミシン糸・針の関係			糸調子のとり方	押えの強さ	縫い目の長さ		ジグザグの振り幅			
	布地	ミシン糸	針			直線	ジグザグ				
				糸調子ダイヤル 	押え調節ダイヤル 	送り表示窓 		ステッチ表示窓 			
薄地縫い 	ローン	カタン糸——80番	11番	普通よりややよわく 		1 }	1 }	1 }			
	ジョーゼット	絹ミシン糸——50番									
	★トリコット	化繊ミシン糸—60番	11番			2 }	4 }	3 }			
	ウール・化繊布	絹ミシン糸→50番 化繊ミシン糸→									
普通地縫い 	普通木綿・化繊布	カタン糸—60～80番 化繊ミシン糸—50番	11番	普通 		1 }	2 }	1 }			
	★薄手ジャージー	絹ミシン糸——50番 化繊ミシン糸—60番									
	一般ウール・化繊服地	絹ミシン糸→50番 化繊ミシン糸→	11～14番			4 自動は2.5	4 自動は2.5	5 }			
厚地縫い 	デニム	カタン糸—30～50番	14～16番	普通よりやや強く 		1 }	2 }	1 }			
	★ジャージー	絹ミシン糸→50番 化繊ミシン糸→	11～14番						4 自動は2.5	4 自動は2.5	5 }
	コート地	絹ミシン糸——50番									

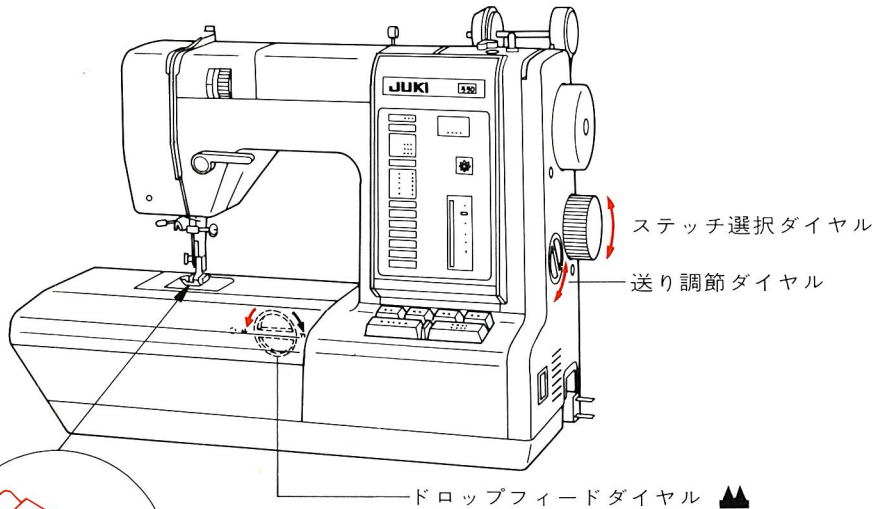
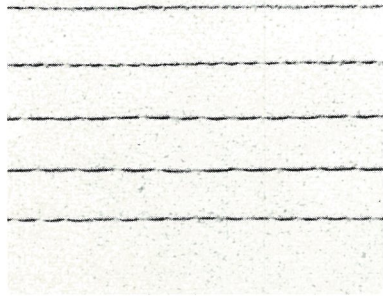
★印はニット針を使用します。ニット針は針の幹が細く、針穴の部分を大きくえぐられた針で、目とびを防止し、伸縮性の布地の縫いに適します。

直線縫い

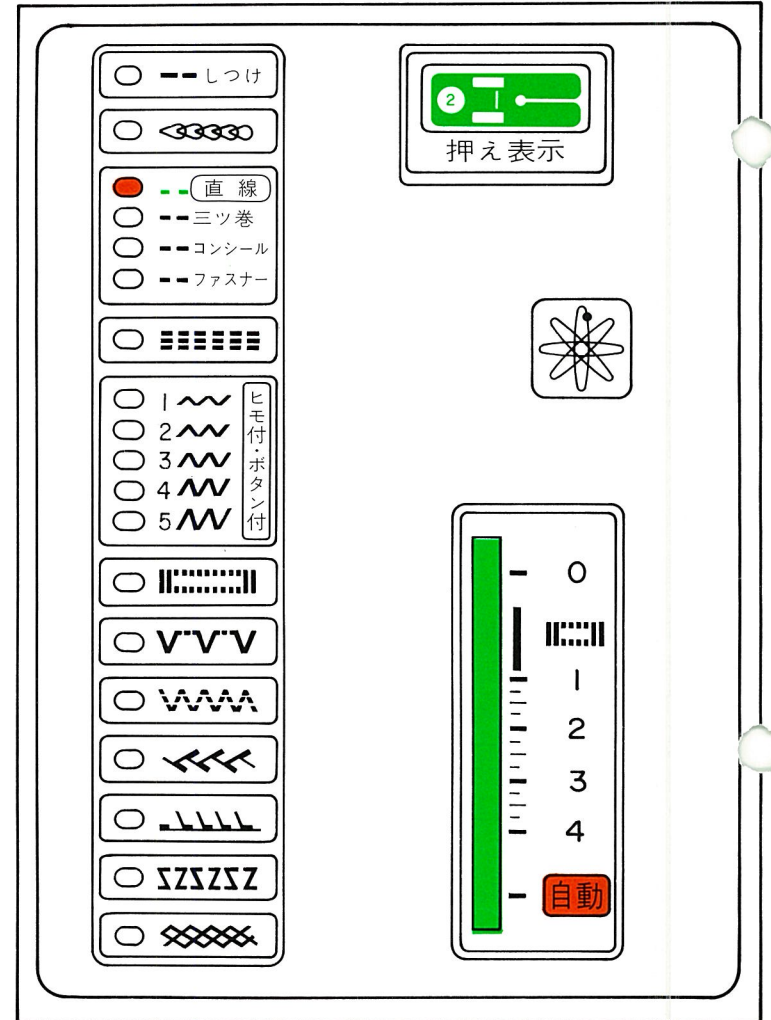
直線縫いは縫い方の基本です。ミシン縫製のすべてのものに用います。布地に適した針、糸、縫い目の大きさなどよく使用説明書を読んで正しくご使用されますと楽しいです。

(1)セットの仕方

- ①ステッチダイヤルを--(直線)に合わせ、押え表示窓に表示された②の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルを回し、0~4または**自動**の目盛を選びます。
- ③ドロップフィードは▲に合わせます。

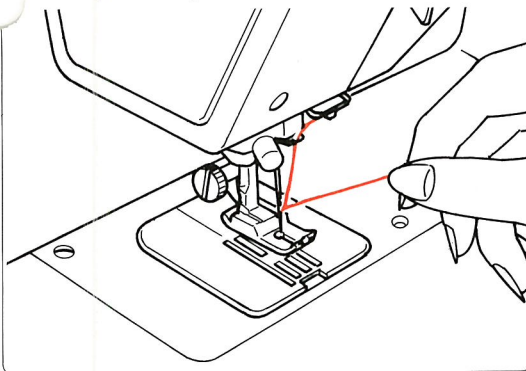


②直線押え

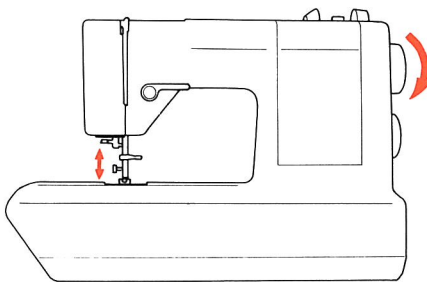


(2) 下糸の引き上げ方

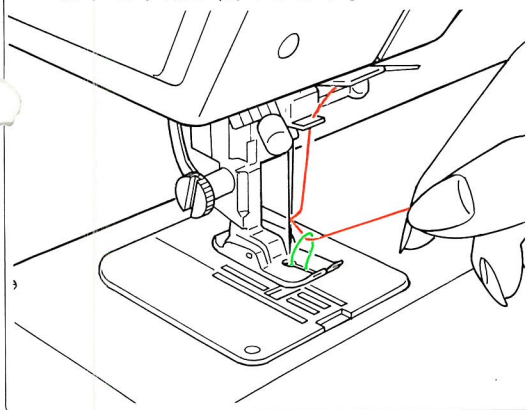
① 上糸の糸かけと下糸のセットができましたら、針に通した上糸のはしをかるく持ちます。



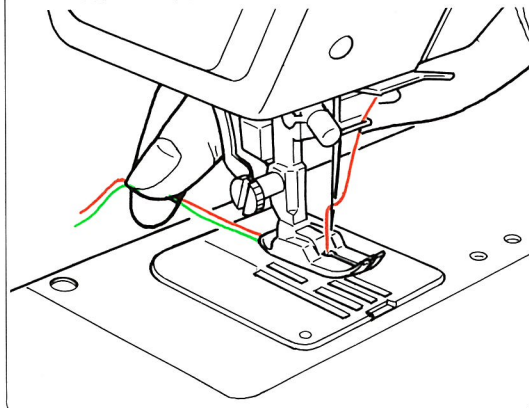
② 上糸を持ったまま、はずみ車(プーリー)を手前に回して針を1回上下させます。



③ 針が上がったところで止めて上糸を引きますと下糸が出てきます。



④ 上糸と下糸をそろえて持ち、押えの下を通して向う側に15~16センチ出します。



(3) 糸調子の調整方法

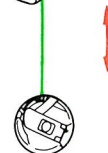
正しい糸調子



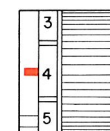
上糸と下糸の合わせ目が二枚の布地の中心にきています。

正しい下糸の張力

上下にふって自然に落ちるのが正常です。

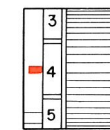


下糸が上にきている場合



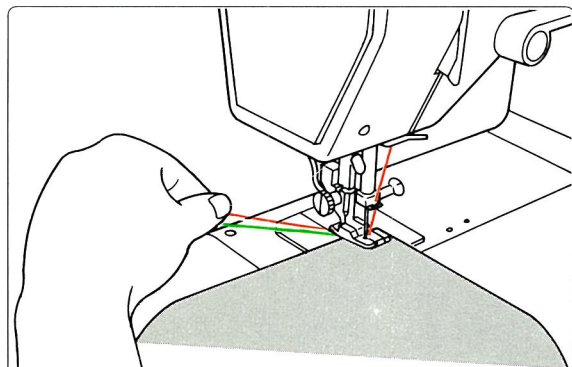
糸調子ダイヤルを矢印の方向に回します。

上糸が下にきている場合

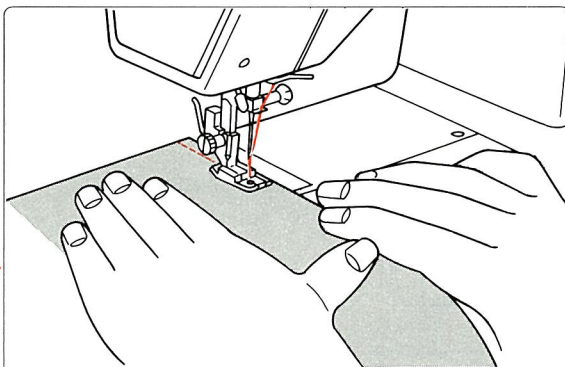


糸調子ダイヤルを矢印の方向に回します。

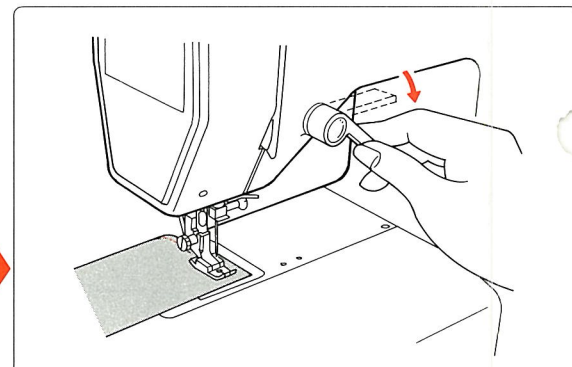
(4)縫い方 1.縫い始め



- ①布地を押えの下におき、はずみ車を手前に回して縫い始める位置に針を刺し込みます。
- ②2本の糸を左手でおさえ、押えを下げて縫い始めます。

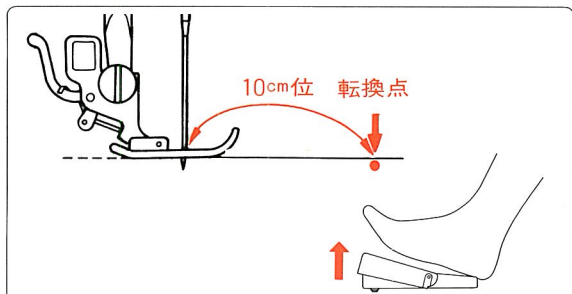


縫っている間は、布地は押えと送り歯の運動により、自動的に送られますから布地を引っばらないようにします。

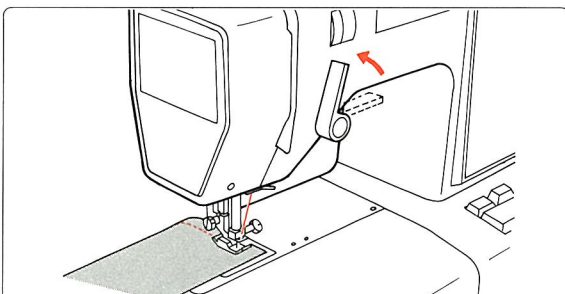


縫い終わりましたらミシンを止めてから糸切りレバーを下いっぱいに入れて糸を切ります。

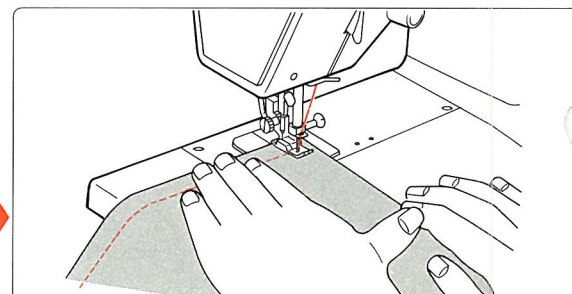
2.縫い方向の変え方——布地の角を縫うときや、縫いの方向を変えるとき



針を止める10センチくらい手前でスピードを低速に切り換えます。
コントローラー使用時は足をゆるめます。



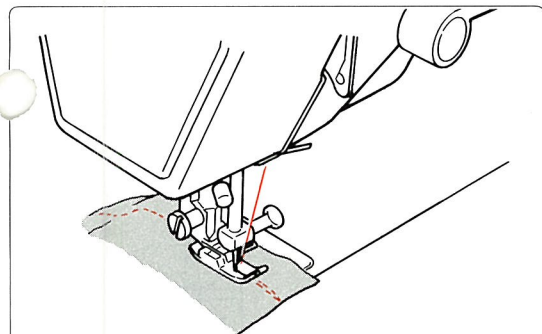
- ①方向転換点ではずみ車を手前に回し針を布地に刺し込んで押えを上げます。
- ②針を軸にして布地を回し、縫い方向に正しくセットします。



押えを下ろして縫い始めます。

3. 縫い始めと縫い終りの始末——縫い始めと縫い終りは、返し縫いと糸を結ぶ方法の2通りがあります。

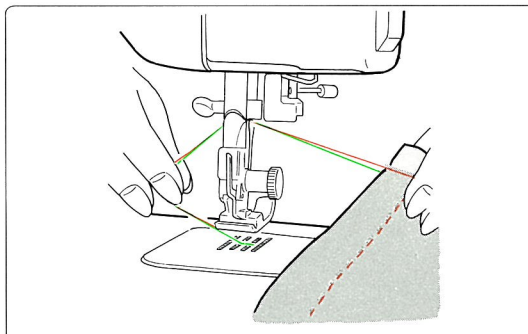
返し縫いの方法（自動糸切りを使用）



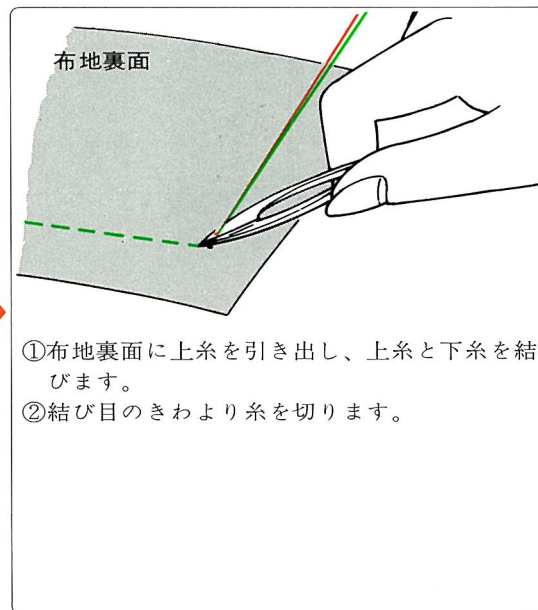
縫い始めや縫い終りは返し縫いをすると糸がほつれません。

- ①縫い始めの場合は布地の端より1センチのところより、返し縫いボタンを押して布地の端まで返し縫いをし、返し縫いボタンをはなしてそのまま縫い始めます。
- ②縫い終りの場合は、所定の位置まで縫い進んだら、返し縫いボタンを押して約1センチ縫い返して自動糸切りで糸を切ります。

糸を結ぶ方法（糸切り溝を使用）



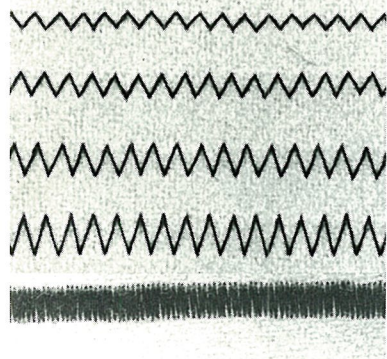
- ①上糸と下糸をそろえて、押えの下より向こう側に10～15センチほど出します。
- ②はずみ車を手前に回し針を刺しこみ、押えを下げて縫い始めます。
- ③縫い終わったら押えを上げ、布地を静かに向こう側に引き出します。
- ④布地について引き出された上糸と下糸をそろえて約15センチ引き出し、図のように糸を切ります。



- ①布地裏面に上糸を引き出し、上糸と下糸を結びます。
- ②結び目のきわより糸を切ります。

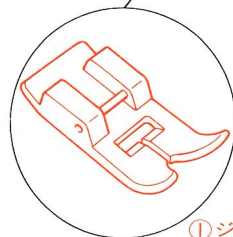
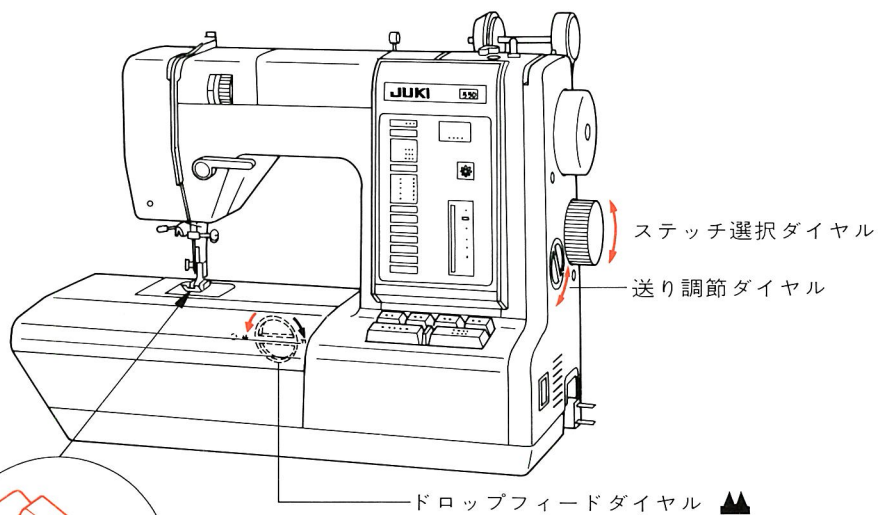
※ダーツ縫いや、薄い布を縫ったり、布端から縫い始める場合は、返し縫いをすると、縫い目がかたくなったり、表にひびいたり、つれる場合がありますので糸を結ぶ始末を用いる場合が多くあります。

ジグザグ縫い



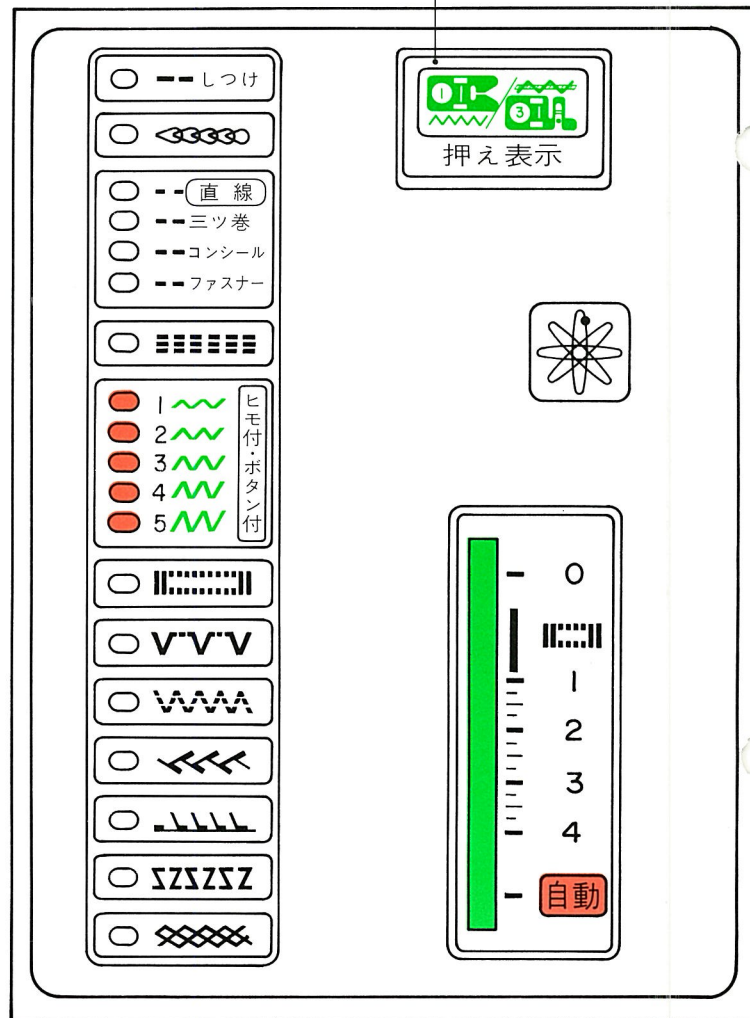
(1) セットの仕方

- ①ステッチ選択ダイヤルを 1. 2. 3. 4. 5. のいずれかの振り幅に合わせ、押え表示窓に表示された①の押え金を使います。
- ②送り調節ダイヤルを回し、0～4または**自動**の目盛を選びます。
- ③ドロップフィードは に合わせます。

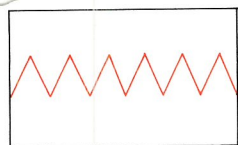
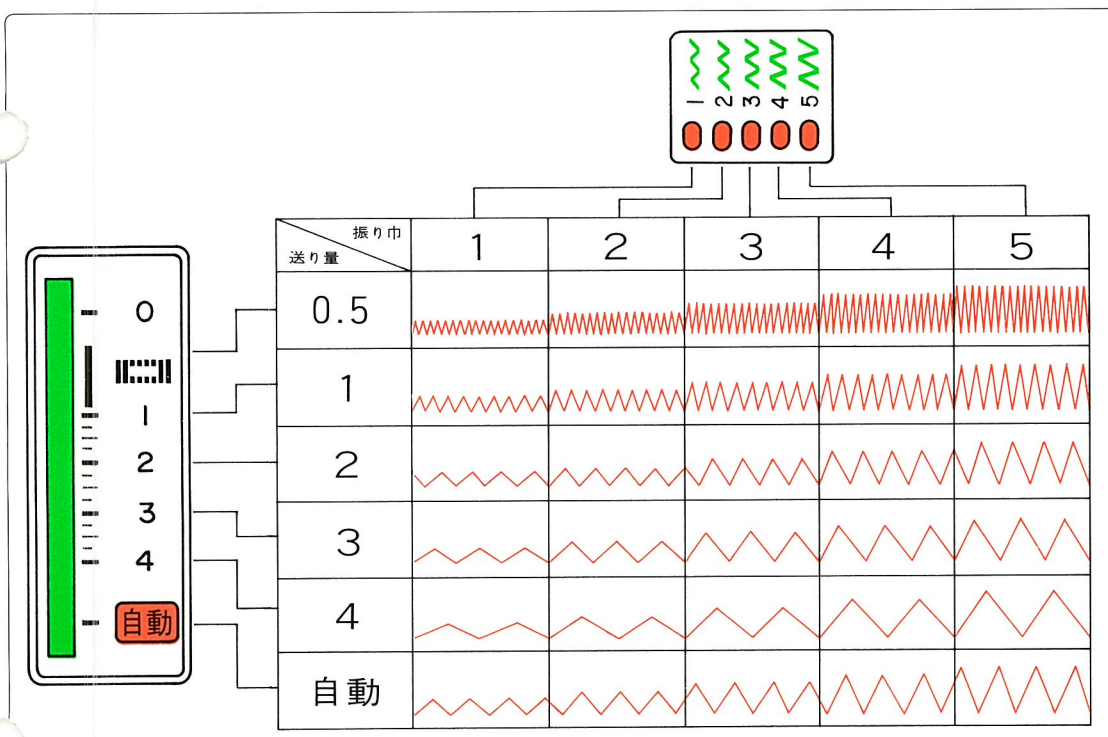


①ジグザグ押え

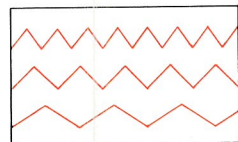
①の押え金を使います。



(2) ジグザグ縫いの振り幅と送り量

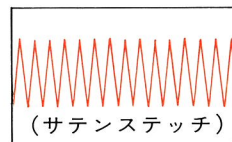
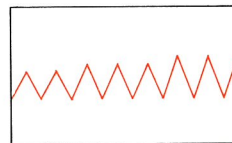


ジグザグ縫いは、針を左右に振りながら縫います。振り幅と送りは“自動”にセットしておけば、それぞれ理想の縫い目がえられます。



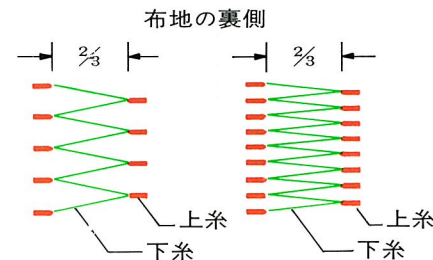
ジグザグ縫い1~5のいずれかを選び、送りを手動で0.5~4の目盛に合わせれば振り幅は固定で送り量が変わります。

送り目盛・大 → 縫い目が荒い



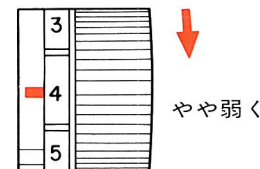
(3) ジグザグ縫いの糸調子

ジグザグの縫い調子は、布地の裏側から見た場合、下糸がそのジグザグ幅の約 $\frac{2}{3}$ 程度占めるように調子を整えます。



ジグザグ縫い サテンステッチ

糸調子は上糸の調子を直線縫いするときより弱くします。



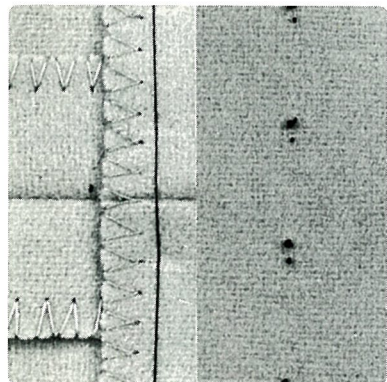
送りは固定にし、振り幅を変えれば図のようなジグザグ縫いになります。

縫い始め、縫い終り、縫い方向の変え方は直線縫いを参照。(P16)

ジグザグ縫いで送りダイヤルを小さくすると、縫い目が一列に並んで下の布地が見えなくなります。これをサテンステッチといいます。送りダイヤルの目盛は布地によって調節します。

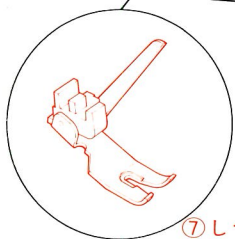
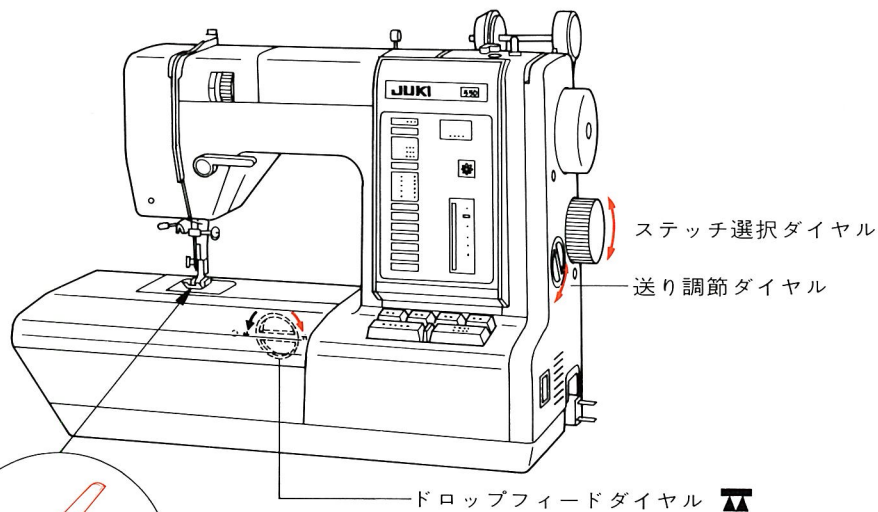
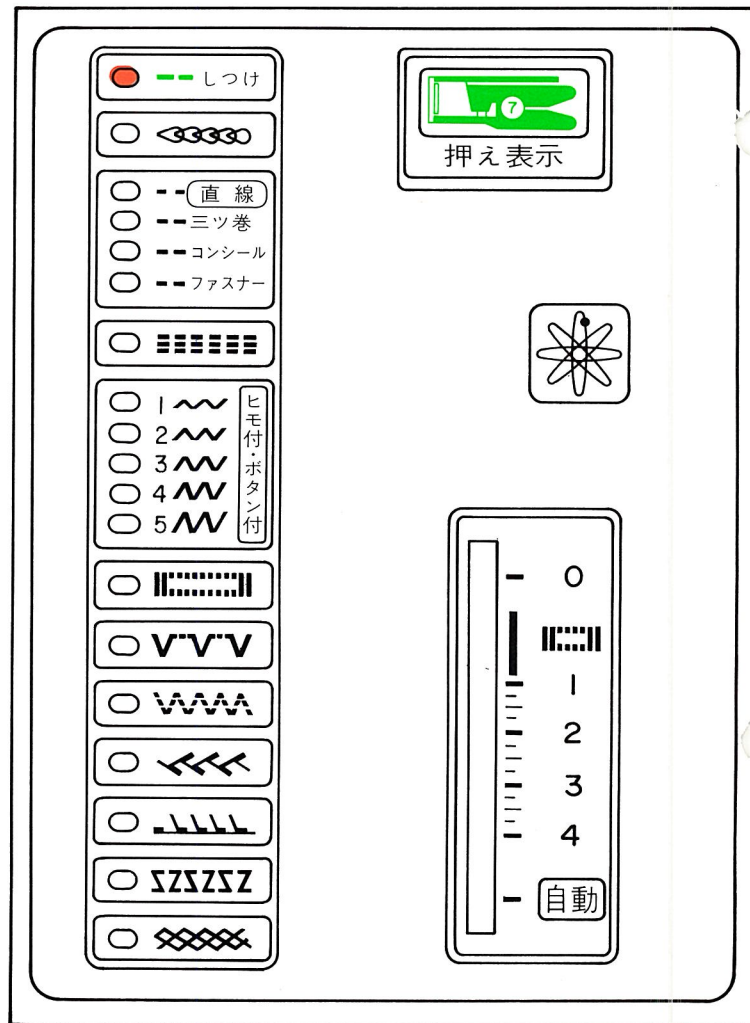
しつけ縫い

ミシンによるしつけ縫いは、布地に対して針が直角に刺さるため、重ね合わせて縫うときに布地がずれることなくしつけができます。



(1) セットの仕方

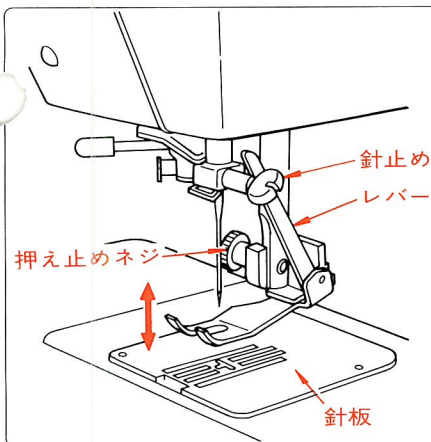
- ①ステッチ選択ダイヤルを **---** しつけに合わせ
押え表示窓に表示された**⑦**の押え金を使います。
- ②ドロップフィードは **▲** に合わせます。
- ③押え調節ダイヤルは **田** に合わせます。
- ④糸調子は 0 ~ 2 にします。



⑦ しつけ押え

(2) しつけ縫いの動かし方

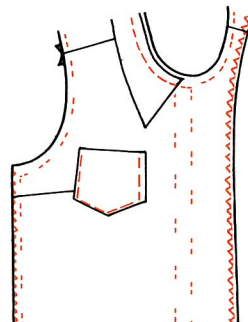
しつけ縫い押えの取り付け方



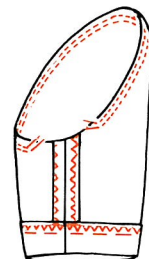
- ① 押え上げレバーで押えを上げます。
- ② 押え止めネジをゆるめ、押えをはずし、しつけ縫い押えを図のようにレバーが針止めの上にくるように押え棒にとりつけ、押え止めネジをしっかり締めつけます。

※はずみ車を手で回したとき、針棒の動きでしつけ縫い押えが上下すれば正しく取り付けられています。

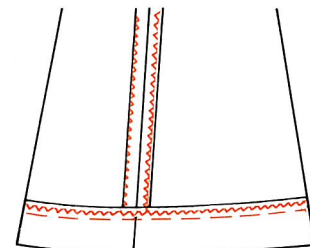
ポケット、衿つけ



袖口



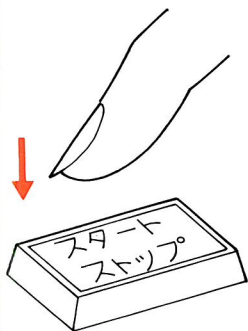
裾上げ



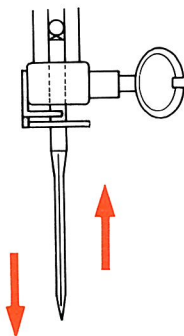
縫う間隔は、1.5～3センチが適当です。縫い始めと終りには1～2針、小針にするとしっかり縫い止められます。

コントローラーボタンを使用する場合

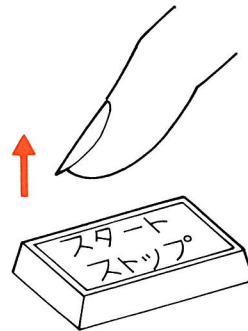
- ① スタート・ストップスイッチを押します。



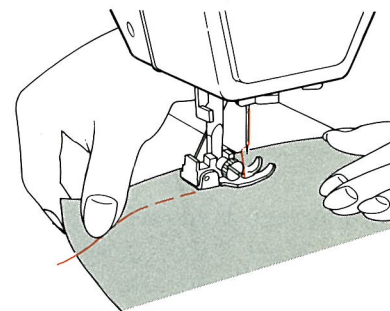
- ② 針は一針縫って上で止ります。



- ③ 針が上で止った時、指をはなすとスイッチはもとにもどります。



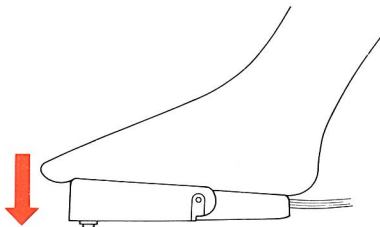
- ④ 針が停止したら布を手で送ります。



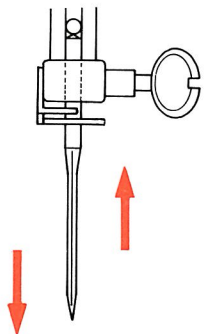
- ⑤ 同じ動作をくり返します。

コントローラーを使用する場合

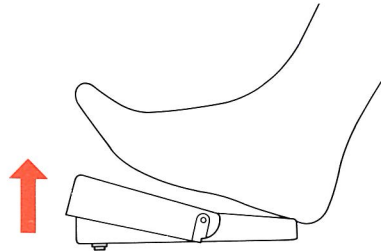
①コントローラーを下まで踏みこみます。



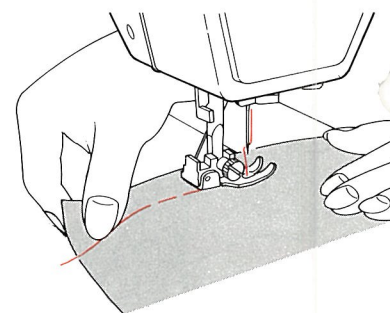
②針は一針縫って上で止ります。



③コントローラーから足をはなします。

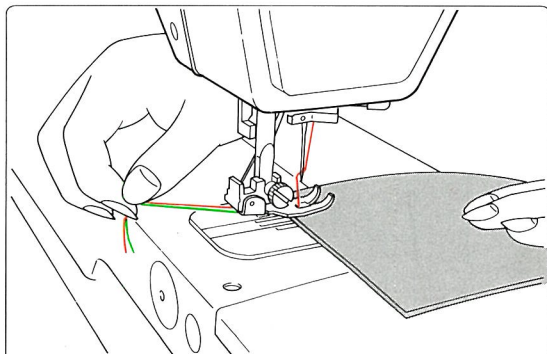


④針が停止したら布を手で送ります。

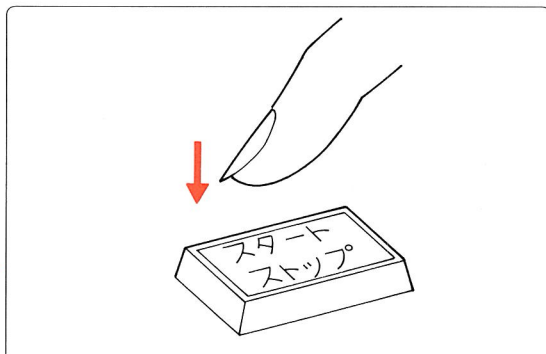


⑤同じ動作をくり返します。

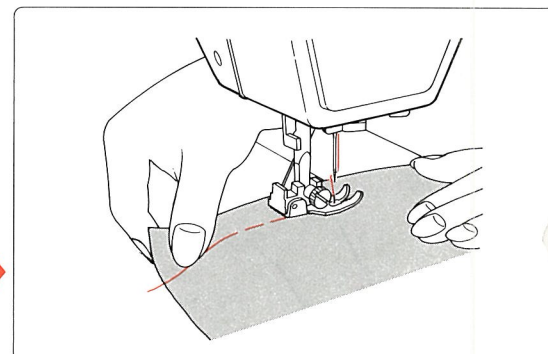
(3)縫い方 1.しつけ



①布地の縫い始めの部分をしつけ押えの下におき、押え上げレバーを下げて押えを下げます。上下糸を向こう側にひきそろえて、糸を手で持って縫い始めます。

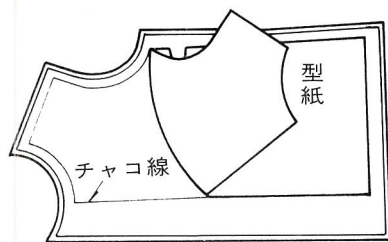


②スタート・ストップボタンを一度押し、一針縫います。またはコントローラーを一回踏み一針縫います。

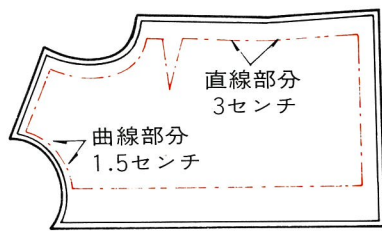


③針が止まってから布地を送ります。上下糸を布地の表裏から手で押えて必要な縫い目の長さだけ布地を向こう側に手で送ります。さらに、②と③の動作をくり返します。

2. 切りじつけ

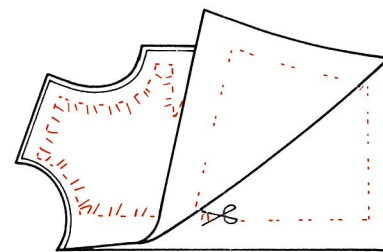


①布地を裁断し、チャコでしるしをつけます。

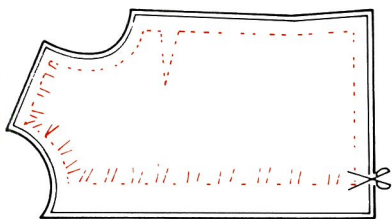


②布地を両手で前後に張って1針小針にして1針長くして縫います。角のところはたまるませます。

※ボタンの位置、ポケットつけ位置などは型紙の上より縫います。



③大針にした長い糸の部分を表裏ともにハサミで切り、2枚の布地を引きはなし、間をハサミをねかせて切ります。



④表裏の長い糸はハサミをねかせて0.3~0.5センチ程度残し、短かく切ってアイロンで押えて仕上げます。

※切りじつけは毛織物、レース、絹織物などヘラヤルレットの使用できない布地に用います。

※糸は50番カタン糸のシルケット加工された糸が適します。

※布地は中表にして裁断します。ミシンの針目が残ると困るものはさけます。